

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 5 年 3 月調査結果 - -

(平成 1 5 年 4 月 2 日)

調査期間：平成 1 5 年 3 月 1 9 日 ~ 2 6 日

調査対象：全国の 4 0 1 商工会議所が 2 6 0 4 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 6 製造業 6 3 7 卸売業 2 3 2
小売業 7 4 5 サービス業 6 0 4

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3、7 8 4 4
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成15年3月調査結果のポイント】

景況は引き続き低水準 イラク開戦により高まる悪化懸念

3月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（50.7）よりマイナス幅が0.6ポイント縮小して50.1となり2カ月連続でマイナス幅が若干縮小した。昨年4月以降、低水準で一進一退を繰り返す不安定な動きをしてきたDI値は、12月、1月と2カ月連続でマイナス幅が若干拡大した後、2月、3月と再び若干縮小した。

業種別の業況DIを見ると、製造、サービスでマイナス幅が縮小したが、他の3業種でマイナス幅が拡大した。また、全産業合計の業況DIの水準は6カ月連続でマイナス50台の低水準で推移しており、中小企業の足元では、不況の常態化による閉塞感が漂っている。景気の先行きについては、イラク戦争の開戦の影響と、戦争長期化への懸念、新年度の公共事業の縮小など、悪化材料が増えていることを訴える声が多く寄せられている。

【建設業】では、「平成15年度は国、県、市とも、公共工事費の予算が前年に引き続き減となっており、非常に厳しい環境」（一般工事）「今月は年度末で忙しいが、4～7月は工事量も減少すると思われる」（一般工事）と、公共工事の縮小に関するコメントが寄せられており、また、「競争が激化しており、取引先も連鎖倒産を危惧し、受注条件よりも取引先の財務状況の良し悪しで選択する傾向が強くなりつつある」（一般工事）「官民とも上下水道工事の仕事量が大幅に減少し、過当競争で原価割れの状況」（管工事）と、需要の減少と競争激化を訴える声が多く寄せられている。

【製造業】では、「新年度に向け受注が若干増加傾向にあり、ハードディスク、カメラ付携帯電話が好調で、通信関連に動きがある」（電気機器）「中国向けと思われる工作、建設、繊維などの産業機械関連の受注が活発」（金属加工機械）「統一地方選挙用印刷物が発生し、若干好転傾向」（印刷）などの声がある一方、「LPガス、塗料、プラスチックなど石油関連商品の値上がりが続いている」（計量器、測定器等）「仕事があっても取引先の値引き要求が強く、採算割れになる」（金属加工機械）など、引き続き仕入れコストの上昇や、売上、採算面での厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。

【卸売業】では、「現下の経済状況により、売上の減少が加速しており、資金繰りも悪化」（各種商品）「鉄関係の仕入れ値が上昇傾向」（その他卸）と、引き続き厳しい業況と、仕入れコストの上昇を訴える声が多く寄せられており、「低温傾向が続く春物の動きが鈍く、イラク情勢等の不透明感から消費の減退加わり、依然厳しい」（繊維品）といった声や、「業況が悪化しているにも関わらず、それが当たり前の様になっているような傾向が見受けられる」（各種商品）とのコメントも寄せられている。

【小売業】では、「高額商品の動きは相変わらず鈍いものの、卒業・新入学等の需要増により、やや好転した感がある」（百貨店）との声があるものの、「同業種間の販売競争はさらに激化している」（飲食料）「来客数、売上とも依然として落ち込んでおり、地域の経済状態は極端に落ち込んでいるというのが、商業者の共通意見」（商店街）「イラク戦争の成り行きによっては、先行き暗さが続くと思われる」（百貨店）など、厳しい業況を訴える声が多く寄せられている。また、「中旬まで寒い日が続く春物の動きが悪かった」（百貨店）と、天候の影響を訴えるコメントも寄せられている。

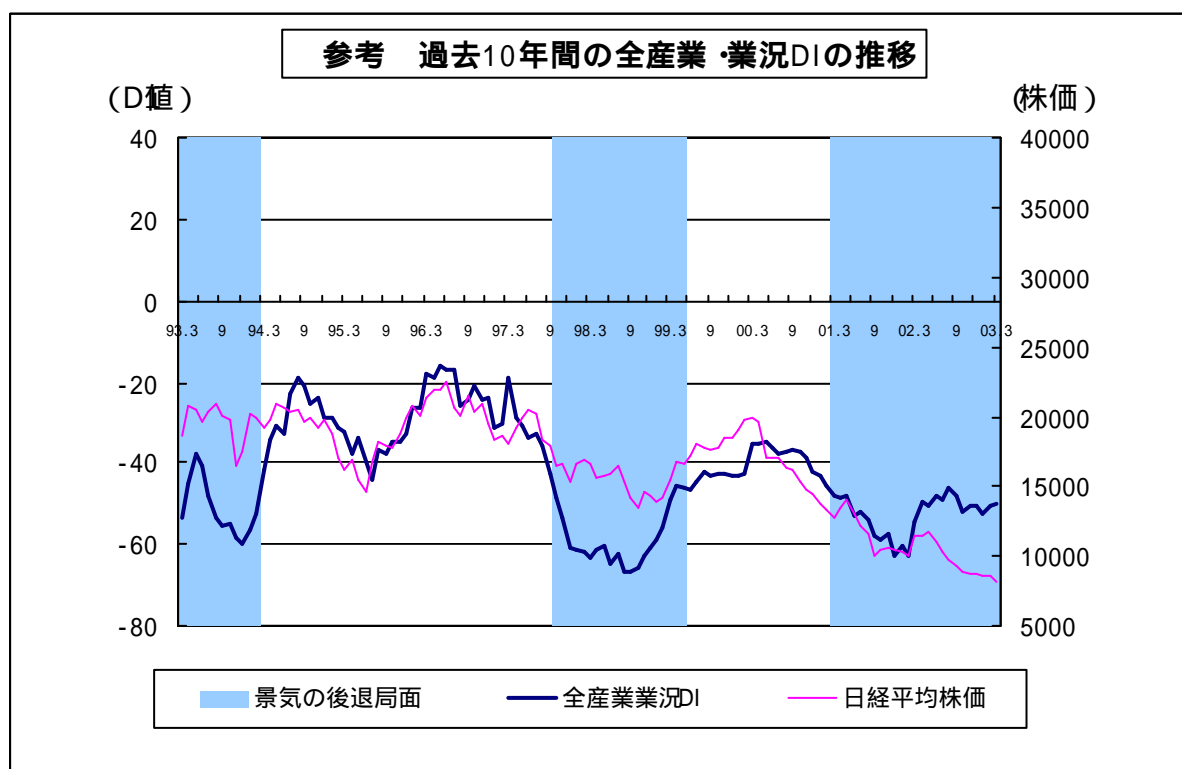
【サービス業】では、「行楽、歓送迎会等による客数増で、売上が微増」(一般飲食店)、「観光シーズンの始まりで来客者が多く、来月も期待」(旅館)との声がある一方、「企業の歓送迎会等の減少が大きい」(一般飲食店)、「タクシー業界は最悪の状況で、特に個人タクシーは苦しい」(タクシー)と、引き続き消費の低迷を訴える声が多く寄せられている。また、「荷主サイドからの料金単価面での協力要請が強く数量・単価の下落が経営を圧迫」(運輸)と、単価の下落や、「イラク問題により軽油が値上がりしている」(運輸)と、仕入れコストの上昇を訴えるコメントも寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は、建設、卸売、小売の3業種で前月水準よりマイナス幅が拡大したが、製造、サービスでマイナス幅が縮小したため、全産業合計の売上D I は前月水準よりマイナス幅が0.6ポイント縮小して43.1となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

採算面では、卸売でマイナス幅が拡大したが、他の4業種で縮小したため、全産業合計の採算D I はマイナス幅が2.4ポイント縮小して44.5となり、業況および売上D I とともに、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が45.7と、昨年同時期の先行き見通し(42.0)と比べて下向いている。

景気に関する声、当面する問題としては、イラク戦争と仕入れコストの上昇、公共工事の縮小などに関するコメントが目立っている。



【業況についての判断】

3月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（50.7）よりマイナス幅が0.6ポイント縮小して50.1となり2カ月連続でマイナス幅が若干縮小した。昨年4月以降、低水準で一進一退を繰り返す不安定な動きをしてきたDI値は、12月、1月と2カ月連続でマイナス幅が若干拡大した後、2月、3月と再び若干縮小した。

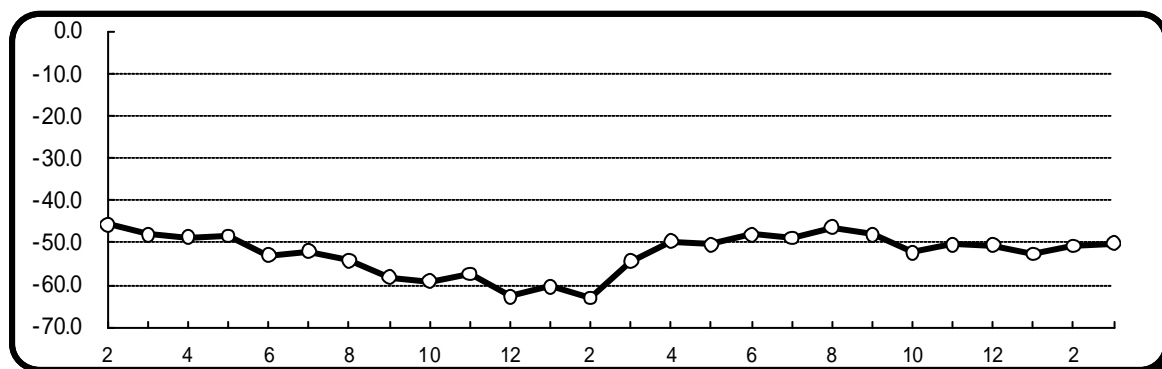
向こう3カ月（4月～6月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が45.7と、昨年同時期の先行き見通し（42.0）と比べて下向いている。

業況DI（前年同月比）の推移

	14年 10月	11月	12月	15年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	52.3	50.4	50.5	52.8	50.7	50.1	45.7 (42.0)
建設	63.7	62.9	63.0	65.5	64.7	64.8	64.1 (61.6)
製造	53.7	46.7	47.7	49.1	46.7	43.9	43.9 (40.2)
卸売	57.1	44.9	43.1	46.2	48.2	54.4	39.4 (51.6)
小売	45.8	46.0	48.6	51.1	48.0	49.2	41.7 (37.1)
サービス	49.4	53.7	50.4	53.4	50.2	46.2	42.7 (32.6)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年3月の先行き見通しDI < 以下同じ >

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

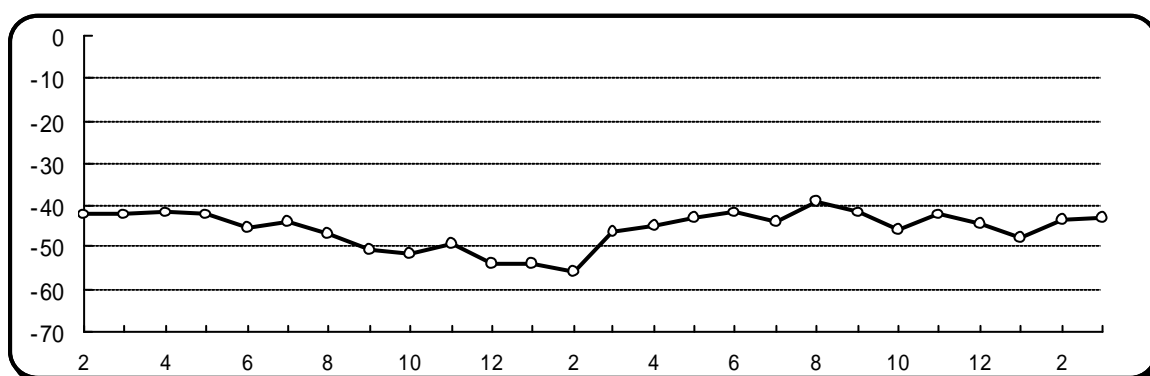
売上面では、D I 値のマイナス幅は、建設、卸売、小売の3業種で前月水準よりマイナス幅が拡大したが、製造、サービスでマイナス幅が縮小したため、全産業合計の売上D I は前月水準よりマイナス幅が0.6ポイント縮小して43.1となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が38.6と、昨年同時期の先行き見通し(35.9)に比べて下向いている。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	14年				15年			先行き見通し 4～6月
	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
全産業	46.0	42.5	44.5	48.1	43.7	43.1	38.6 (35.9)	
建設	56.9	56.3	53.9	64.4	57.1	59.0	56.8 (59.8)	
製造	44.5	41.2	39.7	39.7	36.8	33.3	38.4 (36.4)	
卸売	55.8	37.1	38.3	42.7	41.8	45.9	26.9 (36.3)	
小売	39.8	35.8	45.9	45.7	40.8	44.9	33.6 (29.4)	
サービス	44.4	44.7	44.2	51.8	46.8	39.4	37.2 (26.4)	

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

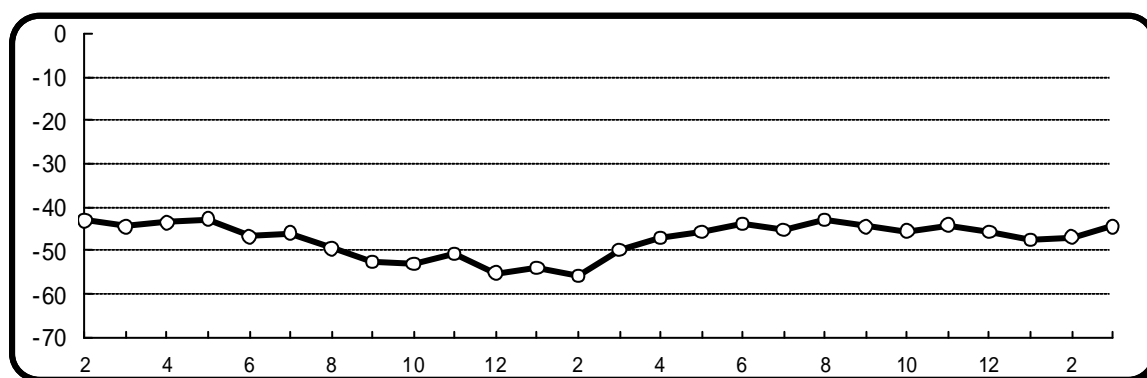
採算面では、卸売でマイナス幅が拡大したが、他の4業種で縮小したため、全産業合計の採算D Iはマイナス幅が2.4ポイント縮小して44.5となり、業況および売上D Iとともに、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が38.6で、昨年同時期の先行き見通し(37.7)と比べて下向いている。

採算D I (前年同月比) の推移

	14年 10月	11月	12月	15年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	45.6	44.2	45.7	47.6	46.9	44.5	38.6 (37.7)
建設	60.5	61.3	61.9	61.6	63.4	61.9	54.2 (58.0)
製造	51.4	46.3	48.9	47.6	46.3	42.5	40.8 (41.2)
卸売	50.3	37.1	35.3	34.5	40.0	45.0	28.8 (37.6)
小売	29.5	33.9	37.1	40.7	39.7	38.5	31.1 (29.3)
サービス	47.6	45.7	46.2	52.0	48.8	42.2	38.7 (29.8)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	14年 10月	11月	12月	15年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	35.9	35.7	35.9	37.1	38.0	37.6	34.7 (33.9)
建設	45.7	49.2	49.6	50.8	54.0	55.2	50.4 (48.3)
製造	42.3	36.9	38.4	39.8	39.6	36.6	36.7 (40.6)
卸売	29.9	31.9	27.6	28.9	31.9	31.5	27.7 (28.6)
小売	26.8	27.5	27.9	28.9	33.1	31.2	28.4 (26.3)
サービス	33.7	35.1	35.3	36.7	32.0	34.9	32.2 (27.6)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設、サービスを除く3業種で悪化超感が弱まったことから、全産業合計のD Iも4カ月ぶりに悪化超感が若干弱まる。

【先行き見通しD I】製造、卸売を除く3業種で昨年同時期に比べ悪化超感が強まり、全産業合計でも悪化超感が若干強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	14年 10月	11月	12月	15年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	1.7	2.6	3.1	2.3	2.9	7.4	8.0 (0.9)
建設	6.4	6.0	3.2	1.8	0.7	2.6	7.1 (0.7)
製造	12.3	12.2	15.7	14.1	16.2	18.5	17.5 (5.9)
卸売	9.8	2.4	2.4	2.9	0.0	11.9	7.5 (5.2)
小売	1.8	3.0	5.1	4.6	7.4	1.6	1.0 (5.2)
サービス	4.8	7.0	6.0	3.0	5.0	8.2	9.7 (5.5)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全業種で上昇超感が強まり、全産業合計でも上昇超感が強まる。全産業合計で6カ月連続の上昇超過となった。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べ上昇超感が強まり、全産業合計でも上昇超感強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	14年 10月	11月	12月	15年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	16.4	15.8	15.5	15.3	16.0	16.7	18.7 (17.6)
建設	34.2	35.7	33.0	31.9	35.3	36.4	34.2 (36.1)
製造	25.6	21.6	20.9	20.9	20.7	18.0	23.0 (22.2)
卸売	11.0	15.0	16.2	14.0	16.5	21.9	19.6 (17.8)
小売	7.0	4.2	4.2	5.8	6.7	6.6	9.8 (7.0)
サービス	8.5	10.1	11.4	10.0	9.5	12.2	13.9 (12.0)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比 D I】製造、小売を除く 3 業種で過剰超感が強まり、全産業合計でも 2 カ月連続で過剰超感が若干強まる。

【先行き見通し D I】建設を除く 4 業種で昨年同時期に比べ過剰超感が強まり、全産業合計でも過剰超感が若干強まる見通し。

【平成15年3月の景気キーワード】

イラク戦争

業種を問わず、イラク戦争の影響と、戦争の先行きへの懸念を訴える声が多く寄せられている。建設からは、「石油類の価格上昇が予想され、資材価格の高騰に結び付く恐れがある」(浜田・一般工事)、製造からは「イラク戦争の影響で、中近東市場での商談の減少が懸念される」(大阪・繊維機械)、「イラク向けサリー生地生産について影響大」(勝山・織物)、「先行き見通しについて現状維持と見るのが精一杯のところ、戦争長期化が経済環境に及べば、さらに景気悪化の可能性が大」(大川・家具)、「戦争長期化の場合、接着剤の原材料仕入れ単価の上昇が懸念される」(静岡・ゴム、プラスチック履物)といった声が寄せられている。卸売、小売、サービスからも、「イラク戦争がどのように日本経済に影響するのか不安」(上越・繊維品卸)、「可処分所得の減少に伴う消費意欲の減退に加え、戦争の成り行き次第では大きな影響が発生するのでは」(北上・百貨店)、「戦争による航空機利用客の減少が影響」(成田・食堂、レストラン)、「イラク戦争等の国際情勢不安が国内旅行にも影響するのではないかと先行き不安」(館山・旅館)、「戦争により海外への出張や国際会議等のイベントが自粛傾向にあり業況悪化」(名古屋・その他事業サービス)、「食用油等の輸入原材料の値上がりが心配」(むさし府中・そば、うどん店)といった声が寄せられている。一方、「個人消費に明るさは見えないが、戦争による影響は、今のところ景気低迷、株安等に折り込み済みに見え、明確ではない」(横浜・百貨店)、「戦争が短期で終了した場合、株価も大きく反発すると予想され、個人消費も上昇に転じると期待したいところ」(武生・百貨店)といった見方も寄せられた。

仕入れコスト上昇

先月に引き続き、イラク問題等により、原材料の高騰による仕入れコストの上昇を訴える声が寄せられており、「燃料(ガス・灯油)の値上げが収益を圧迫」(洲本・建設用粘土製品製造)、「原油値上げにより、焼成用ガスの値上がりが厳しく、3月でキロ当たり5円の値上がりで、昨年10月からだと15～17円(15%位)上がっている」(伊万里・陶磁器、同関連製造)、「原材料値上げ、販売価格下落で、販売価格への転嫁は進まない」(岐阜・プラスチック製造)、「軽油の大幅な値上げで採算悪化しており、消費自粛ムードのため、引越し作業が企業、個人とも減少」(石岡・運輸)と、イラク情勢による原油高騰の影響を訴える声が多い。また、「中国へ原材料を輸出した方が高く売れるため、鉄・鋼材の国内での供給が減っており、1週間で2%ずつ、1カ月で約1割値上げされた」(西宮・建設建築用金属製造)、「原材料、副機材が約10%値上げされる一方、製品単価の値下げ要請があり、経営を圧迫している」(水沢・鉄素形材製造)、「依然として販売価格の下落が続いている中、用紙の値段は高止まりのまま」(札幌・印刷)といった声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
15年	1月	先行き不安感	消費低迷	倒産・廃業 資金繰り不安
	2月	先行き悲観	仕入れコスト上昇	
	3月	イラク戦争	仕入れコスト上昇	

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「平成15年度は国、県、市とも、公共工事費の予算が前年に引き続き減となっており、非常に厳しい環境」(一般工事)「今月は年度末で忙しいが、4～7月は工事量も減少すると思われる」(一般工事)と、公共工事の縮小に関するコメントが寄せられており、また、「競争が激化しており、取引先も連鎖倒産を危惧し、受注条件よりも取引先の財務状況の良し悪しで選択する傾向が強くなりつつある」(一般工事)「官民とも上下水道工事の仕事量が大幅に減少し、過当競争で原価割れの状況」(管工事)と、需要の減少と競争激化を訴える声が寄せられている。
製 造	業況、売上D Iは2カ月連続で、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小した。「新年度に向け受注が若干増加傾向にあり、ハードディスク、カメラ付携帯電話が好調で、通信関連に動きがある」(電気機器)「中国向けと思われる工作、建設、繊維などの産業機械関連の受注が活発」(金属加工機械)「統一地方選挙用印刷物が発生し、若干好転傾向」(印刷)などの声がある一方、「LPガス、塗料、プラスチックなど石油関連商品の値上がりが続いている」(計量器、測定器等)「仕事があっても取引先の値引き要求が強く、採算割れになる」(金属加工機械)など、引き続き仕入れコストの上昇や、売上、採算面での厳しい状況を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは3カ月連続、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「現下の経済状況により、売上の減少が加速しており、資金繰りも悪化」(各種商品)「鉄関係の仕入れ値が上昇傾向」(その他卸)と、引き続き厳しい業況と、仕入れコストの上昇を訴える声が寄せられており、「低温傾向が続き春物の動きが鈍く、イラク情勢等の不透明感から消費の減退加わり、依然厳しい」(繊維品)といった声や、「業況が悪化しているにも関わらず、それが当たり前の様になっているような傾向が見受けられる」(各種商品)とのコメントも寄せられている。
小 売	業況D Iは2カ月ぶり、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「高額商品の動きは相変わらず鈍いものの、卒業・新入学等の需要増により、やや好転した感がある」(百貨店)との声があるものの、「同業種間の販売競争はさらに激化している」(飲食料)「来客数、売上とも依然として落ち込んでおり、地域の経済状態は極端に落ち込んでいるというのが、商業者の共通意見」(商店街)「イラク戦争の成り行きによっては、先行き暗さが続くと思われる」(百貨店)など、厳しい業況を訴える声が寄せられている。また、「中旬まで寒い日が続く春物の動きが悪かった」(百貨店)と、天候の影響を訴えるコメントも寄せられている。
サービス	業況、売上、採算D Iは、ともに2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「行楽、歓送迎会等による客数増で、売上が微増」(一般飲食店)「観光シーズンの始まりで来客者が多く、来月も期待」(旅館)との声がある一方、「企業の歓送迎会等の減少が大きい」(一般飲食店)「タクシー業界は最悪の状況で、特に個人タクシーは苦しい」(タクシー)と、引き続き消費の低迷を訴える声が多く寄せられている。また、「荷主サイドからの料金単価面での協力要請が強く数量・単価の下落が経営を圧迫」(運輸)と、単価の下落や、「イラク問題により軽油が値上がりしている」(運輸)と、仕入れコストの上昇を訴えるコメントも寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)をみると、北海道、関東、東海を除く6ブロックでマイナス幅が縮小し、全ブロック合計でも2カ月連続で若干縮小した。

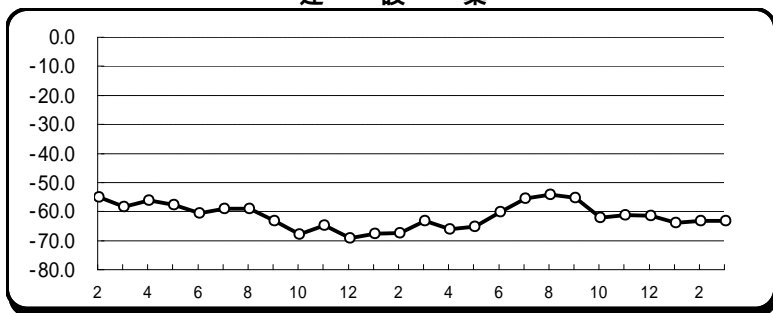
ブロック別の向こう3カ月(4月~6月)の業況の先行き見通しは、東北、東海、近畿を除く6ブロックで昨年同時期の先行き見通しと比べ下向いており、全ブロック合計でも下向いている。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

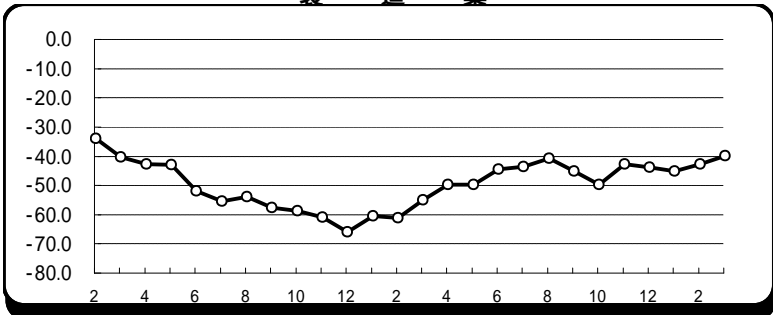
	14年 10月	11月	12月	15年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全 国	52.3	50.4	50.5	52.8	50.7	50.1	45.7 (42.0)
北海道	41.3	50.8	51.1	55.7	44.4	46.2	41.7 (34.6)
東 北	53.2	54.0	46.0	52.6	55.2	54.7	52.0 (56.2)
北陸信越	47.0	45.4	46.5	51.3	51.1	49.2	44.3 (31.9)
関 東	54.7	51.1	52.9	54.5	50.0	54.7	45.5 (39.8)
東 海	53.0	51.2	49.7	45.5	41.4	43.6	46.0 (46.2)
近 畿	58.0	53.3	52.2	54.3	53.7	49.6	45.6 (52.5)
中 国	49.3	50.6	45.3	50.3	52.7	48.7	51.9 (36.0)
四 国	60.6	55.0	62.6	65.5	58.2	56.6	40.7 (38.9)
九 州	46.5	41.5	47.5	48.1	50.3	43.3	43.3 (38.1)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

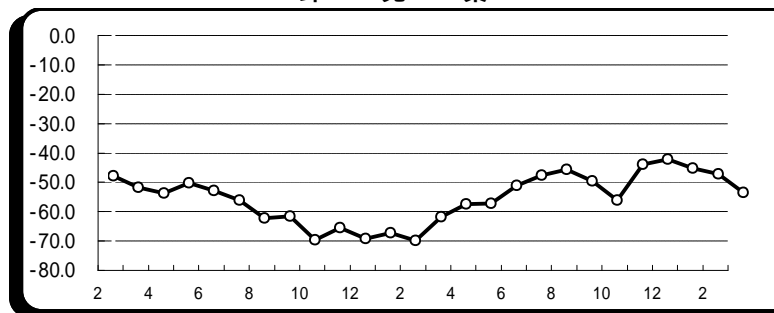
建設業



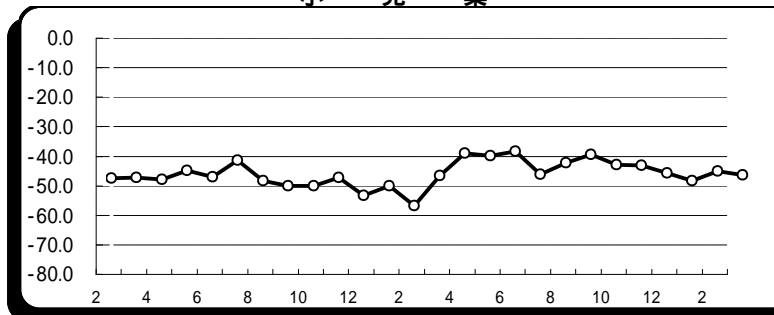
製造業



卸売業



小売業



サービス業

